

東京撰抜新聞 各社撰抜新聞

去る一月廿三日様若座の火と諸新聞より
抜華をるに第二番目の切幕が既明ん
ととる折しも例の釣下を洋燈の石油へ
誤り火が移り忽ちハツと燃上りまき
火事ふうこの内火勢は益々強く
なり充満して居る見物あつたて
めく其声の恰も山の崩る如く
大方より収斂動み疾くも巡查方の
出張する割み怪我人も少る死す
宿又二階三階の役者の騒ぎも一方
るに平常落着きとの團平郎の
我先ふと有る綿入絆天七端折の
細帯をさつ逃出ば芝翫半四郎
家橋も辛らく其場をのれ
たり又相中中通りの役者の
高さより飛下りしもあり是
るに平常立廻りせる身の
怪き故左もあさん生ハナ
目大の焼失あつて午後七時頃
鎮火せり右に村市村座の
大夫元と助高屋を始め
我童璃寛田之助関三
其外ヨリ若干の金四
と施与せしとぞ



御明治十五年
一月廿七日
演町三番子
馬二守川音次郎
新敷二番地
出板人山本平吉

吉川重平